

三島地域 地域活性化プラン

平成 19 年 7 月

(平成 20 年 7 月一部改正)

(平成 21 年 1 月一部改正)

(平成 25 年 2 月一部改正)

(平成 28 年 3 月一部改正)

三島地域活性化推進協議会

1. 三島地域における地域活性化の目標・方向性

1-1 三島地域における地域産業の現状と課題

三島地域は、事業所統計で見ると、大阪府内で事業所数は第4位、従業者数は第3位に位置する地域である。また、「北摂」として良質な住宅地域を擁し、大阪や京都のベッドタウン的な要素が非常に濃厚な地域といえるが、ロジスティックスの担い手としての運輸業の集積を始め、そのアクセスの利便性を求めた業種、企業も点在している。

工業統計（従業者4人以上調査対象）をみると、製造業事業所数では大阪府内第7位と下位に位置するが、製造品出荷額・粗付加価値額は第4位、従業者数・現金給与総額は第5位となっている。このことは、事業所数の割合としては高くないものの、大手～中堅企業の立地により製造品出荷額・粗付加価値額等を押上げる結果となっていることが考えられる。さらに有形固定資産年末現在高（従業者30人以上調査対象）は、府内第3位であり、設備投資等の資本が三島地域に多く投下されている。交通の利便性のよさから、大手～中堅企業の工場が進出していることがうかがえる。また、大手企業の研究機関の立地も多い。しかしながら、近年、工場の他地域への流出も多く、製造業事業所の立地が難しい地域となってきているようである。

事業所統計によると、事業所数（産業全体）では①「卸売・小売業」、②「サービス業（他に分類されないもの）」、③「飲食店、宿泊業」が上位3位を占める。大阪、京都の後背地であり、住宅地域として大きく発展してきたエリアであるため、その消費を支える事業所が数多く立地している結果だと思われる。大阪府全体との比較では、特化した割合を占める業種はないが、従業者数では、住宅地域としての要素も強いことから、「医療・福祉」が第4位にランクされ、大阪府全体のポイントより高い結果となっている。

地場産業技術の集積は他地域と比べると薄いですが、ベッドタウンとして成長してきた三島地域は、地域の住む人材、働く人材、学ぶ人材も地域資源のひとつと捉えるなら、大きなポテンシャルを持った地域とも言える。三島地域における産業を考える場合、地域産業の活性化は住宅地域という特性と調和する形で考えなければならないであろう。

なお、三島地域の特筆すべき点として、大阪大学、関西大学、追手門学院大学、平安女学院大学、大阪人間科学大学等の高等教育機関が多数立地し、多くの研究者、学生を擁する。知的資源、人的資源の層は厚い。地元行政では、大学との協定を結び連携に意欲的ではあるが、地域産業との産学連携は始まったところで、具体的成果はこれからに期待される。

さらに、「彩都ライフサイエンスパーク」を中核に、「大阪北部バイオクラスター」の形成が目指されており、わが国のバイオクラスターのNo.1 エリアを狙っている。バイオベンチャーや大学発ベンチャーも立地する。また、大阪府産業の中心である大阪市の後背地として、バイオ・ライフサイエンス以外にも、環境・情報通信・コンテンツ等の先端産業集積創出の期待が持てる。

1-2 新たな地域産業創出の必要性と可能性

このような地域産業の現状から、三島地域における新たな地域産業創出の必要性として、以下の点が挙げられる。

【三島地域 新たな地域産業創出の必要性】

- 三島地域は大阪や京都のベットタウンとして発展してきた。地場産業と呼べるような集積もない。地域住民と地元産業の結びつきは脆弱とも言える。地域は住機能がすぐれているだけで活性化するものではない。地域住民と地域産業が共存し、活力あるまちづくりを進めていく必要性は高い。
- 大阪府産業の中心である大阪市の後背地として企業も多数立地するが、その市場や帰属意識を大阪市内に置いている場合も少なくない。既存企業と地域を結び付けていくこと、地域のアイデンティティを強化し地域のブランド力を高めていくことの必要性も高い。

また、地域の特性から、三島地域における新たな地域産業創出にあたって、以下の可能性がみられる。

【三島地域 新たな地域産業創出の可能性】

- 大学・研究機関等が多数立地し、地域の持つ知的資源は重厚である。これを生かせれば、新たな地域産業創出の可能性も見えてくる。
- 交通の要衝として古くから栄えてきた三島地域は、現在にもその地理的利便性を継承している。産業創出面においてもアドバンテージをもたらすであろう。
- 良質な住宅地域として多彩な定住人材を持ち、交通アクセスの良さから交流人材も多い。人的資源を地域資源のひとつと見るならば、高いポテンシャルを持つ。
- 住宅地域として、その生活文化環境をより向上させる地域ニーズが存在する。地域産業においてそれを満たすシーズを開発できれば、地域密着型の産業創出につながる可能性がある。
- 大阪府内でも高い開業率を誇る地域であり、インキュベーション施設も存在する。起業家育成のための基盤が存在する。

1-3 三島地域の特性・地域資源

三島地域の特性と地域資源について、以下の通り概観した。

【三島地域の特性と地域資源 概観】

- 大学や研究機関等の知的資源が豊富に集積しており、その面では関西でも指折りの地域と言える。地域としての高いポテンシャルを感じさせる。地域産業との結びつきはまだこれからであろう。
- 大阪や京都のベットタウンとして成長してきた地域であり、多彩な定住人材を持ち、人的資源は充実。住宅地域として、医療福祉・教育等の地域密着型専門サービス業の大きな市場も地元が存在する。
- 高速道路網、鉄道網が充実し、交通のアクセスはよい。社会基盤資源も充実している。
- 大阪府産業の中心である大阪市の後背地として、地理的利便性を求めた企業も集積している。しかしながら、地域との関係が薄い。
- 地場産業と呼ばれるような産業集積は存在しない。他地域でみられるような伝統的産業技術の存在も目立たない。
- 都市化の波は、地域の農林・自然資源等を生かした産業を飲み込んできた。既存の農林・自然資源を保護・保存する動きのみならず、それを活用してよみがえらせようする動きもみられる。(間伐材のバイオコースとしての活用等)
- 交通の要衝として古くから発達してきた地域であり、名所・旧跡・埋蔵文化財も数多く存在する。しかし、地域資源として、産業面での活用はあまり検討されてこなかった。
- 住宅地域として、ケーブルテレビの普及が進み、地域情報紙の数も多い。市民活動も盛んで、まちづくりやコミュニティビジネスに取り組む動きも見られる。
- サッカーJリーグに所属するプロサッカーチームがホームタウンとしている。

三島地域資源の状況（例示）

分類	個別地域資源
産業集積資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪の副都心としての江坂地域の産業集積（吹田市） ● 国際文化公園都市・彩都（茨木市） ● 大阪府中央卸売市場等の北大阪流通センター（茨木市） ● 大手企業等の工場集積（茨木市、高槻市） ● 物流拠点集積（摂津市、茨木市） ● 銘木の集散機能を擁する銘木団地（摂津市） ● 三島地域最大の商業集積地（高槻市） ● とかいなか創生特区～どぶろく特区（高槻市） ● 大手企業の研究機関立地（吹田市、茨木市、高槻市、島本町）
主要社会基盤資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 名神高速道路、近畿自動車道をはじめとする高速交通道路網 ● JR東海道線、阪急京都線・千里線、北大阪急行、大阪モノレールの鉄道網 ● 新駅設置（吹田市、摂津市、島本町）や駅周辺開発計画 ● 高度医療機関（大学病院、国立循環器病センター、三島救急医療センター等）の集積
教育研究基盤資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪大学、関西大学、千里金蘭大学、大阪学院大学、大阪人間科学大学、追手門学院大学、梅花女子大学、藍野大学、大阪医科大学、大阪薬科大学、平安女学院大学 ● 国立民族学博物館、JT生命誌研究館 ● ポリテクセンター関西、医薬基盤研究所、食品分析センター
地域メディア資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域におけるケーブルテレビの普及 ● 地域情報紙の発達 ● サッカーJリーグチームのホームタウン ● 高槻ジャズストリート
人的資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪、京都のベットタウンとしての定住人口 ● まちづくり、コミュニティビジネス等の地域活性化に取り組む人材 ● 大学・研究機関等の数多くの立地による専門人材の豊富さ ● 大学等の教育機関に通う学生
まちなみ・景観・歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 千里ニュータウン ● 千里万博記念公園・太陽の塔 ● 鉄道の街～JR、阪急の操車場 ● 西国街道 ● 高槻・富田地区のまちなみ ● 摂津峡 ● 名所・旧跡・埋蔵文化財（交通の要衝として古くから栄えた地域） ● 国産ウイスキー発祥の地（島本町）
農林水産・自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 寒天、鵜殿のヨシ、吹田慈姑、竹・タケノコ、鳥飼なす等の地場産品の保存と活用 ● 間伐材の活用（高槻市） ● 離宮の水（島本町）

※あくまでも例示であり、地域資源を限定するものではない。

1-4 地域活性化の目標・方向性

三島地域の特性と地域資源を踏まえて、新たな産業の創出に関する目標・方向性として、以下を取り上げる。

【三島地域活性化の目標・方向性】

地域の知的資源・人的資源を生かした地域産業創出モデル の確立と地域ニーズを満たす生活文化環境づくりの支援

- 三島地域には、付加価値の高い新たな産業創出の基盤となる大学や研究機関などの知的資源、人的資源等が蓄積している。それらを活用し、地域産業を創出することで地域の活性化を図ることを目標とする。

また、先端成長企業育成のみならず、住宅地域として生活文化環境の向上を求める地域ニーズも高いことから、それを満たす事業の支援、地域ブランド力向上に資する事業の支援も視野に入れ、事業展開を図っていくものとする。

2. 地域資源を活かした新しい事業の創出方策

2-1 地域資源の活用イメージ

地域の特性や地理的条件、豊富な産業資源や活用可能性が期待される地域の大学・研究機関の立地状況等から、三島地域における地域資源の活用イメージとして、以下を挙げる。なお、これらは平成19年度時点での地域資源活用イメージであり、今後、産業資源の発掘状況によっておのずと変化していく性質のものである。

【三島地域ブロック 地域資源の活用イメージ】

- ①地域の教育研究基盤資源と連携した事業
- ②充実した社会基盤資源、知的資源を生かした、産業の集積化につながる事業
- ③住宅地域特有の課題解決に貢献し、地域と産業の結びつきを強める事業
- ④地域固有資源を生かした、地域のアイデンティティ形成やブランド力を向上させる事業
- ⑤豊富な人的資源を背景に、起業を促進し地域活力の創出につなげる事業

2-2 重点的に支援すべき事業分野

地域の特性も地域資源としてとらえると、三島地域には大きなポテンシャルがある。これらを産業資源と結びつけ、新たな事業を創出することで地域活性化を図るために、以下のような事業分野の支援が必要と考える。

【三島地域 支援対象の地域資源と事業分野】

① 地域産学・産産連携事業分野

集積する教育研究基盤資源である地域内の大学・研究機関等と連携した中小企業者等の事業を支援し、地域活力の創出を目指す。科学技術分野の連携のみならず、社会・文化系の連携、学生との連携も視野に置く。

② 先端成長産業集積創出事業分野

大阪市の後背地として企業も立地しているように、社会基盤資源としての交通アクセスの優位性が高い地域である。知的資源も集積している。また、大阪北部バイオクラスターの形成を目指しているなどの動きもある。地域への波及効果も考えると、先端成長企業の創出・集積化が地域の活力を生み出す可能性がある。バイオ・ライフサイエンス以外にも環境・情報通信・コンテンツ等も対象領域となる。

③ 地域ニーズ密着型ビジネス創出分野

住宅地域として定住人口も多い。その生活文化環境に対する意識も高く、多くの課題が提起されている。地域の問題に取り組むボランティアやNPOの動きもある。生活文化環境をより向上させるべく、地域ニーズに密着した事業を展開する先を支援する。介護・医療福祉・教育・育児・住環境改善・コミュニティ形成等の活動が対象領域となる。

④ 地域情報発信事業分野

古くから交通の要衝として拓け、名所・旧跡等も多く、プロサッカーチームもホームタウンにするなど、地域資源も豊富である。また、地場製品の保存もされている。しかし、大阪・京都のベットタウンで地域への帰属意識が薄く、それら地域資源が生かしきれていない。三島地域の良さを域内・域外に発信することで、地域のアイデンティティやブランド力を形成することに資する事業を支援する。

⑤ 地域起業家育成分野

豊富な人的資源を持ち、開業率も高い地域である。地域に住む起業家の地元での起業・事業化を支援し、地域の活力向上を目指す。高成長を狙うビジネス、地域ニーズ密着型ビジネス等を対象領域とする。

2-3 事業創出に向けた具体的方策

三島地域では、後述する地域活性化推進協議会を中心に、地域資源を活用した新事業創出に向けて、主に以下の方策等によって取り組むものとする。

- おおさか地域創造ファンドや国の制度等に関する説明会の開催
- 地域活性化コーディネーター等による地域資源、担い手等の発掘調査
- 地域の大学・研究機関等との連携に向けたマッチングの推進等

3. 地域活性化の推進体制の構築

3-1 地域活性化推進協議会の設置・運営

三島地域では関係市町、商工会、商工会議所等を構成員とする「三島地域活性化推進協議会」を平成19年5月2日に設置し、ファンド助成対象事業の選定及び支援の実施主体とする。

同協議会は、吹田商工会議所が事務局を担い運営にあたるものとし、ファンド事業全般を推進する専門人材として地域活性化コーディネーターを配置し、地域活性化プランの推進、助成事業の運営等を行う。

【三島地域活性化推進協議会 構成メンバー】

- ・吹田市まち産業活性化部地域経済振興室
- ・茨木市産業環境部商工労政課
- ・高槻市産業環境部産業振興課
- ・摂津市生活環境部産業振興課
- ・島本町都市創造部にぎわい創造課
- ・吹田商工会議所
- ・茨木商工会議所
- ・高槻商工会議所
- ・摂津市商工会
- ・島本町商工会
- ・株式会社池田銀行泉州銀行
- ・北おおさか信用金庫
- ・株式会社日本政策金融公庫吹田支店

【三島地域活性化推進協議会 事務局】

- ・吹田商工会議所

また、助成対象事業の選定は公募によるものとし、選定に際しては、外部有識者等で構成する助成事業選定委員会を設置するものとする。

【三島地域助成事業選定委員会 構成メンバー】

＜委員＞

- 関西大学 化学生命工学部教授
- 神戸学院大学 経営学部教授
- 大阪人間科学大学 大学院教授
- 独立行政法人中小企業基盤整備機構 近畿支部
中小企業・ベンチャー総合支援センター（中小企業診断士）
- T K C 近畿大阪会（税理士）

3-2 支援機関・関係団体の役割

ファンド事業を効果的に推進し、地域活性化に資するため、「三島地域活性化推進協議会」の構成員のみならず、大阪府、大阪府立産業開発研究所、大阪府立産業技術総合研究所、財団法人大阪産業振興機構、地域力連携拠点（北摂地域）、金融機関、大学等の機関・団体、関係職員の知識・経験・技術・ノウハウを結集して推進していくものとする。

【三島地域において、特に連携を期待する関係機関等】

- ・ 大阪大学、関西大学、追手門学院大学、大阪人間科学大学、平安女子学院大学等の地域の大学
- ・ 産学連携を進める地域金融機関のシンクタンク部門
- ・ ケーブルテレビや地域情報紙等の地域メディア
- ・ 三島地域をホームタウンとするJリーグプロサッカーチーム
- ・ まちづくりやコミュニティビジネスに取り組む地域住民、NPO団体

4. 助成対象事業の選定・支援

下記 4-1～3 の内容については、三島地域支援事業助成金交付要綱による。

- 4-1 助成対象事業の要件
- 4-2 助成限度額、助成率
- 4-3 事業選定方法(選定基準、選定委員会等)

5. 事業目標の設定と評価

5-1 事業目標の設定

(1) 事業目標

おおさか地域創造ファンドによる支援事業計画に掲げる事業成果に係る目標に準じて、事業実施期間(10年間)終了後の成果目標として、おおむね以下の通り設定する。

- ①支援事業(プロジェクト)件数
おおむね 40～50 件(単年度あたり 4～5 件)
- ②支援事業(プロジェクト)の参加企業・機関・団体
おおむね 80～100 組織(単年度あたり 8～10 組織)
- ③支援事業のうち中小企業新事業活動促進法に基づく経営革新計画の承認や新連携計画の認定、及び中小企業地域資源活用促進法に基づく事業計画の認定
おおむね 20～30 件(単年度あたり 2～3 件)

5-2 事業評価の方法と体制

上記事業目標の達成状況については、「三島地域活性化推進協議会」において評価を行うとともに、公益財団法人大阪産業振興機構に設置する「ファンド事業審査委員会」において、毎年度、評価を受けるものとする。